

インフォメーション・コーナー

会 告

○第75回(2026年度)農業農村工学会賞の決定	66
○研究部会長の交代	66
○第76回(2027年度)農業農村工学会賞候補の推薦	66
○2026年度(第75回)農業農村工学会大会講演会の開催情報	67
○2026年度(第75回)農業農村工学会大会講演会の参加申込み(再)	68
○2026年度(第75回)農業農村工学会大会講演会の企業展示および広告掲載申込み(再) 申込締切 6月10日	69
○今年もやります! 農業農村工学会ミニ動画コンテスト“こりゃ映像! 2026”(再) 応募締切 7月31日	70
○新刊「農業用ダム保全管理工学」の発刊	70
○「農業用ダム保全管理工学」のカバーを修正しました	71
○新刊 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「排水」の発刊	71
○新刊 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農道」, 設計「頭首工」, 設計「農道」の発刊	71
○お願い!! 持続可能な農業農村工学のための学術基金へのご寄付	72
○CPD 通信教育の参加者募集!! 問題と解答はホームページに掲載	72
○「水土の知(農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!	73
○改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版およびWeb版の閲覧申込み案内	75
○2027年の学会誌表紙写真の募集 応募締切 9月30日	75
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2024年7月から2026年6月までの編集体制と編集事務局	76
○第77回関東支部大会の開催(第1報) 講演申込締切 10月9日	77
○第83回京都支部研究発表会の開催(第2報) 発表申込締切 7月31日	77
○2026年度農村生態工学研究会現地研修会の開催 申込締切 6月22日	78
○日本学術会議公開シンポジウム「健康な土壌から健康な社会を!—SDGsへの貢献」の開催 7月25日開催	79
○混相流シンポジウム2026の開催 8月31日~9月2日開催	79
○第42回ファジィシステムシンポジウム/FSS2026の開催 9月2~4日開催	79
農業農村工学会論文集 内容紹介	80
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム(一般参加可) 一覧	81
学会記事	82

第94巻第7号予定

展望: 近畿の農業の状況と農業農村整備の取組み: 平山周作

小特集: 近畿の農業農村整備の現在と未来に向けた取組み

報文: 琵琶湖を中心とした農業農村整備の実施と将来展望: 鶴沢和弘ほか

報文: 京都府における農村活性化施策の変遷と展望: 齊藤翔平

報文: 来るべき未来に向けた大阪の農業農村整備の展開: 田中好輝

報文: 地域の手で次世代のために水の恵みを活かす~兵庫県・東条川疏水~: 佐藤彰浩ほか

報文: 奈良県の農業農村整備の現在と将来に向けた取組み: 木下大輔

報文: 和歌山県日高地域における持続可能な農業農村の構築に向けた取組み: 中西一宏

技術リポート

北海道支部: 圃場整備設計の三次元土工モデル試行とデータ形式の検討: 平野良治ほか

東北支部: 象潟前川地区ほ場整備事業における景観保全の取組み: 佐藤誠樹ほか

関東支部: 作業時間が制約される落差工工事における補修工法の選定: 森 淳之介ほか

京都支部: 暗渠排水施工圃場における排水不良原因の調査: 中巻成世ほか

中国四国支部: 精査積算方式における二重締切工の計画と施工: 北川淳一ほか

九州沖縄支部: 工事施工後の排水不良圃場における排水対策: 高橋 亮

小講座: 農業農村整備における BIM/CIM を活用した ICT 施工の意義: 渡井弥周

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。なお、ライブ配信での口頭発表が行われない場合は、認定プログラムの対象にならないこともございます。詳しくは主催先の各支部または各研究部会にお問い合わせください。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
2026年7月 3日	農村生態工学研究部会	現地研修会	—	岐阜県安八郡、海津市	94巻6号
2026年8月 25～28日	大会運営委員会	2026年度（第75回） 農業農村工学会大会講演会 Ⓟ	—	大阪市	93巻12号、94巻1、 2、3、4、5、6号
2026年9月 1～3日	農村計画研究部会	第1回次世代と学ぶ農村計画 (現地研修)	都市農村交流による 持続的な農村振興	群馬県 みなかみ町	94巻5号
2026年10月 29～30日	九州沖縄支部	令和8年度（第107回）支部大会 Ⓟ	未定	大分市	94巻4号
2026年11月 10日	関東支部	第77回支部大会 Ⓟ	—	甲府市	94巻6号
2026年11月 19～20日	京都支部	第83回研究発表会 Ⓟ	—	京都市	94巻4、6号

第75回（2026年度）農業農村工学会賞の決定

第75回（2026年度）農業農村工学会賞は、2026年5月12日（火）開催の第288回理事会において、学術賞2件、研究奨励賞4件、優秀論文賞2件、優秀報文賞4件、優秀技術賞3件、優秀技術レポート賞7件、著作賞2件、教育賞1件、歴史・文化賞1件、地域貢献賞1件、メディア賞1件、功労賞2件、

上野賞2件、沢田賞1件が、決定いたしました。

なお、詳細は学会ホームページおよび本誌第7号巻頭2026年度（第75回）農業農村工学会大会講演会のページをご参照ください。

研究部会長の交代

2026年4月1日付で下記研究部会長が交代しました。

記

畑地整備研究部会

新部会長 竹内 真一

前部会長 中村 公人

水文・水環境研究部会

新部会長 多田 明夫

前部会長 清水 克之

農村道路研究部会

新部会長 中村 博康

前部会長 兵頭 正浩

農業農村情報研究部会

新部会長 伊藤 良栄

前部会長 溝口 勝

第76回（2027年度）農業農村工学会賞候補の推薦

第76回（2027年度）の農業農村工学会賞（上野賞、沢田賞を除く）を、下記の募集要項に則って、推薦書によりご推薦ください。なお、推薦書様式および授賞規程は学会ホームページ (<https://www.jsidre.or.jp/format/>) をご参照ください。推薦書提出先および提出方法：学会賞選考委員会担当 (new-suido@jsidre.or.jp)宛に電子メールでお送りください。提出ファイル：推薦書のエクセルファイルおよびエクセルファ

イルをPDF化したファイルの2ファイル（推薦者の押印は不要、パスワードを設定してください。）

推薦締切：2026年10月末日

その他：メールが届き次第、受領の返信をいたしますが、数日経過しても返信がない場合は、上記担当者宛にお問い合わせください。

第76回(2027年度)農業農村工学会賞 募集要項

賞の種別	学術賞	奨励賞			優秀賞		
		研究奨励賞	技術奨励賞	優秀論文賞	優秀報文賞	優秀技術賞	優秀技術リポート賞
賞の趣旨	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に貢献した創意ある優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に寄与すると認められる優秀な業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の技術業績	農業農村工学に関する学術または技術についての優秀な業績	農業農村工学に関する単独の論文業績	農業農村工学に関する単独の報文業績	農業農村工学に関する単独の技術業績
賞の対象期間	2021年10月から2026年9月までに発表されたものとする。ただし、その5カ年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができ。	2023年10月から2026年9月までに発表されたものとする。ただし、その3カ年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができ。	2023年10月から2026年9月までに発表されたものとする。ただし、その3カ年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができ。	2025年10月から2026年9月までに発表されたものとする。	2025年10月から2026年9月までに発表されたものとする。	2024年10月から2026年9月までに発表されたものとする。	2021年10月から2026年9月までに発表されたものとする。
賞の対象業績	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。			原則として本学会の刊行物に発表された論文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された報文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。主として現場調査資料、現場技術報告書とする。	原則として本学会の刊行物に発表された技術リポートとする。
受賞候補者	個人			個人または組織・団体			
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。			正会員および名誉会員の自薦、他薦または学会誌・論文集の企画・編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。			

賞の種別	著作賞	教育賞	環境賞	歴史・文化賞	地域貢献賞	国際貢献賞	メディア賞	功労賞
賞の趣旨	原則として一般に市販されている図書の中で、農業農村工学に関する学術または技術を広げ世に紹介することに顕著な貢献をしたと認められる業績	農業農村工学に関する教育、技術者の継続教育など資質の向上に寄与したと認められる活動で優れた業績	農業・農村の生産・生活環境の改善や生態系保全など、美しい環境の保全や創出において優れた計画および施工を行い、もしくは管理・保全活動を行った業績	農業農村工学に関する歴史・文化を広く世に紹介し、あるいは研究分析などを行った業績	農村地域社会の発展・活性化に貢献した業績	農業農村工学に関する学術または技術について、国際的な交流や調査研究で優れた業績	農業農村工学を紹介したパンフレット、ビデオ作品、教材スライド、映画等	長年にわたる、地道な教育・研究または実務の積み重ねを通じて、農業農村工学の学術または技術の進歩発展に多大の功労があったと認められる者
賞の対象期間	2016年10月から2026年9月までに発表されたものとする。	2021年10月から2026年9月までに行った活動とする。	2024年10月から2026年9月までに行った活動とする。	2021年10月から2026年9月までに行った活動とする。	2021年10月から2026年9月までに行ったものとする。	2021年10月から2026年9月までに行ったものとする。	2024年10月から2026年9月までに制作したものとする。	
賞の対象業績	ハンドブック・便覧の類の著書および翻訳書は対象としない。また、改訂版にあっては全面改訂したもののみを対象とする。							2026年度末に65歳以上に達している者
受賞候補者	著者	個人または組織・団体			個人	個人または組織・団体	個人	
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦または技術者継続教育機構CPD運営委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	
選考の方法	学会賞選考委員会において行う							
賞の決定	理事会において行う							
表彰	2027年度(第76回)農業農村工学会大会講演会において会長が授与する							
推薦締切	2026年10月末日							
推薦書の提出先	公益社団法人 農業農村工学会 学会賞選考委員会宛 new-suido@jsidre.or.jp							

2026年度(第75回)農業農村工学会大会講演会の開催情報

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



2026年度(第75回)農業農村工学会大会講演会は、大阪公立大学森之宮キャンパスにおいて開催します。

- 開催期日 2026年8月25日(火)～28日(金)
 - 講演会 : 2026年8月25日(火)～27日(木)
 - 交流会 : 2026年8月25日(火)
 - 現地研修会: 2026年8月28日(金)
- 会場
 - 開会式, 学会賞授与式, 講演会 : 大阪公立大学森之宮キャンパス
 - 交流会: アートホテル大阪ベイタワー4階 アートグラ

ンドボールルーム

- 運営委員長
 - 大阪公立大学大学院農学研究科 中桐貴生
- スケジュール
 - 参加申込み(第94巻第6号(本誌)再掲) : 6月1日(月)開始
 - 企業展示および広告掲載申込み(第94巻第6号(本誌)再掲) : 6月10日(水)まで
 - ミニ動画コンテスト“こりゃ映像! 2026”募集(第94巻第6号(本誌)再掲) : 7月31日(金)まで

2026年度(第75回)農業農村工学会大会講演会の参加申込み(再)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



2026年度(第75回)農業農村工学会大会講演会は、2026年8月25日(火)～28日(金)の4日間、昨年秋に開設された大阪公立大学森之宮キャンパス(大阪府大阪市)で開催します。本稿では開催要領、参加申込みなどについてお知らせします。

参加登録(早期割引料金)は、2026年6月1日(月)から7月24日(金)までです。準備や手配のため、1カ月前までの登録にご協力ください。

会場設備や発表プログラムの詳細等については本誌第7号(Vol.94/No.7)でお知らせします。

なお、講演発表を申し込まれた方も、別途、参加の申込みが必要です。

1. 開催要領

- (1) 開会式および学会賞授与式：8月25日(火) 13:30～
会場 大阪公立大学森之宮キャンパス 1階アリーナ
大阪府大阪市城東区森之宮 2-1-132
- (2) 交流会：8月25日(火) 18:15～
会場 アートホテル大阪ベイトワー 4階
アートグランドボールルーム
大阪府大阪市港区弁天 1-2-1
- (3) 講演会：8月25日(火)、26日(水)、27日(木)
会場 大阪公立大学森之宮キャンパス 3階～5階
大阪府大阪市城東区森之宮 2-1-132
- (4) 現地研修会：8月28日(金)
 - ① JA いずみの愛彩ランド・狭山池コース
9:00 大阪城公園駅発、10:00 岸和田丘陵、11:00 泉州やさいのビュッフェ&カフェ(昼食、JA いずみの愛彩ランド)、13:00 広域農道、14:10 狭山池、15:30 大阪城公園駅着(予定)
 - ② 奥河内くろまろの郷・久米田池コース
9:00 大阪城公園駅発、10:00 広域農道、11:00 ビュッフェレストラン奥河内(昼食、奥河内くろまろの郷)、13:00 岸和田丘陵、14:00 久米田池、15:30 大阪城公園駅着(予定)

開会式および交流会、現地研修会などの開始時刻については、プログラムの都合により多少前後する場合があります。会場の詳細、プログラムともに本誌第7号に掲載します。

2. 申込方法

2026年度(第75回)農業農村工学会大会専用サイトから参加登録(7月24日まで早期割引料金)をしてください。7月25日以降は通常料金のみとなります。この専用サイトは農業農村工学会のホームページからもリンクされます。専用サイトによる登録ができず、その他の方法での申込みを希望する場合は、「8.(1) 参加申込みに関する問合せ」までご連絡ください。

3. 参加費用

(1) 大会参加費用(税込)と内容

- ・会員区分に従って参加登録してください。
- ・非会員の参加も大歓迎です。
- ・オンラインで参加する学生は無料ですが、参加登録は必要です。

区分	早期割引料金(7/24まで)	通常料金(7/25から)
一般	13,200円	15,400円
学生	3,300円	5,500円
一般(オンライン)	13,200円	15,400円
学生(オンライン)	0円	0円

- ・オンライン参加および現地参加を併用する場合は、現地参加として登録してください。
- ・オンライン参加は聴講のみで、チャットでのコメントや質問はできません。

(2) 交流会参加費

一般8,250円(税込)、学生4,400円(税込)です。

(3) 現地研修会参加費

参加費は①、②コースともに6,600円(税込)で、交通費と昼食代が含まれます。昼食はいずれも地域の食材が使われたビュッフェ形式です。① JA いずみの愛彩ランドでは「泉州やさいのビュッフェ&カフェ」を、② 奥河内くろまろの郷では「ビュッフェレストラン奥河内」を予約します。昼食が不要な方も参加費は同額です。その他の詳細については、農業農村工学会大会専用サイトおよび本誌第7号に掲載します。

4. 昼食

会場(大阪公立大学森之宮キャンパス)の周辺には飲食店やコンビニエンスストアがほとんどありませんので弁当の事前予約を受け付けます。大会当日の弁当販売は行いませんので、農業農村工学会大会専用サイトでの参加登録(早期割引料金期間)の際にお申し込みください。弁当代は1,080円(税込・お茶付)です。なお、夏休み期間中ですが大学の生協食堂は営業していますので利用可能ですが、混雑が予想されます。

5. 託児所

2026年度(第75回)農業農村工学会大会講演会では、育児中の方へ託児施設のご案内または有償で利用可能な託児スペースの設置を予定しております。

利用をご希望の方はメール(2026taikai-osaka@jsidre.or.jp)でご連絡ください。

託児施設のご案内または託児スペースの設置の手配は、お申込みの内容を確認しました後に検討します。お申込みをいただきました時点では、ご利用は確約できておりませんので、この点につきまして、ご承知おきくださいますようお願い申し上げます。講演申込みの際にご連絡いただいた方は、改めてご連絡いただく必要はございません。

申込み期間：2026年6月1日（月）～7月24日（金）
（参加申込み早期割引料金期間と同じです。）

連絡内容：氏名、所属、参加申込み受付番号
申込み先：（公社）農業農村工学会大会講演会実行委員会
2026taikai-osaka@jsidre.or.jp

6. 宿泊施設・航空券などの斡旋

宿泊施設、航空券、鉄道各社の手配については斡旋しませんので、あらかじめご了承ください。

7. 会場までの交通案内

大阪公立大学森之宮キャンパスおよびアートホテル大阪ベイタワーまでのアクセスにつきましては、以下のウェブサイトをご参照ください。

大阪公立大学森之宮キャンパス
<https://www.omu.ac.jp/about/campus/morinomiya/>
※「大阪城公園駅」からのアクセスは禁止されていますので
ご注意ください。
アートホテル大阪ベイタワー

<https://www.osaka-baytower.com/access/>

8. 問合せ先

- (1) 参加申込みに関する問合せ
近畿日本ツーリスト(株) 法人第3支店
「農業農村工学会 2026年度大会講演会」係
担当：花咲・梅津
〒101-0024 東京都千代田区神田和泉町1-13
住友商事神田和泉町ビル12階
E-mail：ec-conv8@or.knt.co.jp
- (2) 大会全般に関する問合せ
2026年度農業農村工学会大会事務局
〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1-1
大阪公立大学大学院農学研究科
E-mail：2026taikai-osaka@jsidre.or.jp

9. 大会運営委員会

委員長 中桐貴生（大阪公立大学大学院農学研究科）

2026年度（第75回）農業農村工学会大会講演会の企業展示および広告掲載申込み（再）

2026年8月25日（火）、26日（水）、27日（木）の3日間、昨年秋、新たに開設された大阪公立大学森之宮キャンパス（大阪府大阪市）で開催します「2026年度（第75回）農業農村工学会大会講演会」において、企業展示および大会講演会概要集に掲載する広告の募集を行います。今回の企業展示会場は、アリーナを使用し、余裕のある広いスペース（1ブース当たり：従来の1.8m×1.5mから2.0m×2.0mに拡大）を確保するとともに、受付、ポスター発表会場、企業展示会場、リクルートコーナー等を一体化した場所とすることで、多くの参加者が訪れやすい会場とします。また、1社当たりの企業展示ブースの数に制限を設けず、1社当たり2ブース以上の使用も可能となっております。なお、従来どおり開会式における企業展示紹介（1分間）の場も設けます。

学会は今、人材確保と育成が喫緊の課題であり、ぜひとも企業展示と広告への申込みをお願いいたします。

1. 企業展示

大阪公立大学森之宮キャンパスの1階アリーナ（屋内）で行います。

2. 広告掲載

大会講演会概要集に掲載（A4判モノクロ印刷）します。
※概要集は大会参加者全員に配布します。
※オンライン聴講での参加者はダウンロード方式です。

3. 料 金

- | | |
|-------------|--------------|
| ①企業展示(1ブース) | 110,000円(税込) |
| ②広告1ページ | 88,000円(税込) |
| ③広告1/2ページ | 44,000円(税込) |

- | | |
|----------------------|--------------|
| ④企業展示(1ブース)+広告1ページ | 176,000円(税込) |
| ⑤企業展示(1ブース)+広告1/2ページ | 143,000円(税込) |
- なお、企業展示と広告をセットで申し込まれ、さらに企業展示ブースを追加する場合、上記、④、⑤の金額に追加ブース代（1ブース当たり110,000円(税込)）が加算されます。

（例：企業展示（2ブース）+広告1ページの場合286,000円(税込)、企業展示（2ブース）+広告1/2ページの場合253,000円(税込)）

また、企業展示に2ブース以上お申込みいただいた企業・団体につきましては追加料金なしで大会専用サイトにバナーを掲載します。

4. 申込方法

- (1) 企業展示および広告掲載の申込みは Web 上で行います。URL は <https://questant.jp/q/2026kigyou> です。申込みフォームに必要事項を入力して送信してください。企業展示の場合は、展示する内容（概要）および電源の要否を入力してください。基準面積は幅2.0m×奥行き2.0mです。
企業展示パンフレットに掲載する原稿および企業ロゴを提供いただきます。後日、連絡担当者に直接ご連絡します。
- (2) 申込期限 2026年6月10日（水）
- (3) 申込み・問合せ先
2026年度（第75回）農業農村工学会大会講演会実行委員会
E-mail：2026taikai-osaka@jsidre.or.jp

今年もやります！ 農業農村工学会ミニ動画コンテスト “こりゃ映像！ 2026” (再)

農業農村工学会広報委員会では、下記のとおり、農業農村工学を紹介する動画を広く募集します。

1. **応募締切** 2026年7月31日(金)
2. **動画の制限時間** 60秒以内
3. **2026年度のテーマ** 「農業農村で〇〇を試してみた結果…」
※「〇〇」と「…」には、ご自身の応募動画に沿った文言を記入
4. **応募資格** どなたでも応募できます。
5. **応募方法** 指定されたタグを付けて動画をYouTubeへアップロードする。
6. **審査方法** 広報委員会動画WTで審議の上、最優秀賞1作品、優秀賞2作品を決定する。
7. **賞金** 最優秀賞(1作品) 2万円
優秀賞(2作品) 各1万円
8. **アップロード方法**
 - ①動画を作成する。
 - ②YouTubeにアップロードする(9.参考資料を参照)。
 - ③タグに3つのワード(jsidre2026, こりゃ映像, 農業農村)を入れる。
 - ④カテゴリに「科学と技術」を選ぶ。
 - ⑤下記の情報を広報委員会動画WT(new-suido@jsidre.or.jp)宛にメールで送る。
氏名, 所属, 連絡先, YouTube動画のURL

9. 参考資料

- ・YouTubeにPCから動画をアップロードする方法
<http://douga-tec.com/?p=4974>
- ・スマホからYouTubeに動画をアップロードするには—Android入門
<http://android.f-tools.net/Q-and-A/YouTube-Upload.html>

＜参考＞こりゃ映像2025 結果

- 最優秀賞：害虫を祓い豊作を祈願する神秘の祭り～虫送り～
小豆島
神戸大学大学院農学研究科 永谷太志・重吉振一郎
https://youtu.be/0UKgma5ZpI0?si=r_KHEhIO3HlmeyrA
- 優秀賞：ここだけの！水土里 能登の水田 ～環境保全と農業復興への挑戦～
内外エンジニアリング(株)技術1部
(内外エンジニアリング(株)能登復興支援チーム
なっとない能登)
福竹望実・田原郁子
<https://youtu.be/Bhg5SpP0C4M>
- 優秀賞：田んぼさんぽ
三重大学生物資源学部共生環境学科農業土木学教育コース
辻本彩名
<https://youtube.com/shorts/WNFcSVsqwas>

新刊 「農業用ダム保全管理工学」の発刊

農業農村工学会では、学会内で長年活動した農業用ダム保全管理研究会を母体に農業用ダム保全管理工学編集委員会を組織して、「農業用ダム保全管理工学」を出版いたしました。改正土地改良法において、保全が明記されています。そのため、現場技術者が知っておくべき農業用ダムの技術を基礎的な事項から解説することで、技術研修のテキストや大学での教科書にも活用できることを意図しています。

購入希望の方は、下記要領にてお申し込みください。

1. 発行書籍

書籍名：農業用ダム保全管理工学
編集：農業用ダム保全管理工学編集委員会
発行：(公社)農業農村工学会
価格：3,960円(税込)、学割：2,960円
送料：1冊200円(最大600円)
規格：A5判 306ページ
発行日：令和7年9月1日

2. 申込み方法

- I. 個人、法人の場合(賛助会員を除く)

- ① 郵便振替：郵便局の払込取扱票の通信欄に書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先をご記入ください。
振替口座番号：00160-8-47993
加入者：公益社団法人 農業農村工学会
- ② 現金書留：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をご同封ください。
- ③ 代金引換：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えてE-mailでお送りください。別途、送料の実費と代引手数料が必要です。

II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合

書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をE-mailでお送りください。

3. 申込み先

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4
(公社)農業農村工学会事務局 図書係
TEL：03-3436-3418
E-mail：suido@jsidre.or.jp

「農業用ダム保全管理工学」のカバーを修正しました

令和7年9月1日に発刊いたしました「農業用ダム保全管理工学」について、カバーに不備が見られましたので修正いたしました。大会講演会会場にてご購入いただきました方には修正版のカバーを送付いたしますので、下記あてにご連絡をお願いします。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
 (公社)農業農村工学会事務局 図書係
 TEL: 03-3436-3418
 E-mail: suido@jsidre.or.jp

新刊 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「排水」の発刊

令和7年4月に制定された、土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「排水」(農林水産省農村振興局編集)を令和7年12月に発刊いたしました。

購入希望の方は、下記要領にてお申し込みください。

1. 発行書籍

書籍名: 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「排水」基準, 基準の運用, 基準及び運用の解説, 技術書

編集: 農林水産省農村振興局

価格: 2,530円(税込), 送料: 1冊200円(最大600円)

規格: A4判 366ページ

発行日: 令和7年12月17日

2. 申込み方法

I. 個人, 法人の場合(賛助会員を除く)

- ① 郵便振替: 郵便局の払込取扱票の通信欄に書籍名, 冊数, 送付先, 担当者名, 連絡先をご記入ください。

振替口座番号: 00160-8-47993

加入者: 公益社団法人 農業農村工学会

- ② 現金書留: 書籍名, 冊数, 送付先, 担当者名, 連絡先を書いた注文書をご同封ください。

- ③ 代金引換: 書籍名, 冊数, 送付先, 担当者名, 連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えてE-mailでお送りください。別途, 送料の実費と代引手数料が必要です。

II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合

書籍名, 冊数, 送付先, 担当者名, 連絡先を書いた注文書をE-mailでお送りください。

3. 申込み先

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
 (公社)農業農村工学会事務局 図書係
 TEL: 03-3436-3418
 E-mail: suido@jsidre.or.jp

新刊 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農道」, 設計「頭首工」, 設計「農道」の発刊

令和6年3月に制定された、土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農道」, 設計「頭首工」, 設計「農道」(農林水産省農村振興局編集)を令和6年10月に発刊いたしました。

購入希望の方は、下記要領にてお申し込みください。

1. 発行書籍

書籍名: 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農道」基準, 基準の運用, 基準及び運用の解説, 技術書

編集: 農林水産省農村振興局

価格: 1,760円(税込), 送料: 1冊200円(最大600円)

規格: A4判 173ページ

発行日: 令和6年10月10日

書籍名: 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 設計「頭首工」基準, 基準の運用, 基準及び運用の解説, 技術書

編集: 農林水産省農村振興局

価格: 4,510円(税込), 送料: 1冊200円(最大600円)

規格: A4判 728ページ

発行日: 令和6年10月7日

書籍名: 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 設計「農道」基準, 基準の運用, 基準及び運用の解説, 技術書

編集: 農林水産省農村振興局

価格: 2,970円(税込), 送料: 1冊200円(最大600円)

規格: A4判 850ページ

発行日: 令和6年10月7日

2. 申込み方法

I. 個人, 法人の場合(賛助会員を除く)

- ① 郵便振替: 郵便局の払込取扱票の通信欄に書籍名, 冊数, 送付先, 担当者名, 連絡先をご記入ください。

振替口座番号: 00160-8-47993

加入者: 公益社団法人 農業農村工学会

- ② 現金書留：書籍名，冊数，送付先，担当者名，連絡先を書いた注文書をご同封ください。
- ③ 代金引換：書籍名，冊数，送付先，担当者名，連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えて E-mail でお送りください。別途，送料の実費と代引手数料が必要です。

II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合

書籍名，冊数，送付先，担当者名，連絡先を書いた注文書を E-mail でお送りください。

3. 申込み先

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
 (公社)農業農村工学会事務局 図書係
 TEL：03-3436-3418
 E-mail：suido@jsidre.or.jp

お願い!! 持続可能な農業農村工学のための学術基金へのご寄付

社会的状況を踏まえ学会では 2026 年度の学生年会費を免除しています。また，大学改革の第二幕を迎えている現在，若手の研究者のみならず，教授を含めた大学教員の研究環境は悪化の一途を辿っており，研究費の削減から人材の育成も困難になっています。そのため，産官学の連携協力の強化を進めているところですが，その一環として，学会にある学術基金の拡充が喫緊の課題となっています。

2024 年 5 月には，持続可能な農業農村工学教育のため「技術者育成のための調査・研究費」を学術基金から公募により必要な大学に支援する学術基金制度の拡充(⑦)を行いました。

使用目的を明確化していますので，ほかに使用することはなく，税制上の優遇措置もあります。新技術の開発と人材の確保・育成のため，会員各位からの多くのご支援をいただきたく，衷心よりお願い申し上げます。

学術基金の枠組みは，以下のとおりです。

- (1) 学会の事業計画に沿った調査・研究(学会に一任)
 (※特に記載がなければ(1)として扱います。)

- (2) 条件を付した寄付

選定条件【 】

- ① ダム保全管理工学に関する調査・研究の推進
 ・気候変動，国土強靱化に対応した既存ダムの保全管理工学の体系化を推進
- ② 大規模コンクリート構造物の設計・施工に関する調査・研究の推進
 ・頭首工などコンクリートの大型構造物のプレキャスト化など効率的な施工による生産性の向上や工事期間の短縮

に資する技術開発

- ③ ①，②以外の分野および学際的分野に関する調査・研究の推進

・上記①，②以外，たとえば ICT など新たに取り組んでほしい技術

- ④ 国際学会会議への出席等の国際交流の推進

- ⑤ 若手研究者の育成の推進

- ⑥ 顕著な功績のあった農業工学遺産の保護等の推進

・青山霊園にある上野英三郎博士の墓所管理
 ・世界かんがい遺産などの保護に資する調査・研究 など

- ⑦ 技術者育成のための調査・研究の推進

詳しくは学会ホームページ (https://www.jsidre.or.jp/gakujutsukikin_kifuno-onegai/) をご覧ください。

個人会員一口 5,000 円 (何口でも可)

法人会員一口 50,000 円 (何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社)農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

公益法人である学会に法人が寄付すると法人税に対して税制優遇措置(一般損金算入限度額+特別損金算入限度額)が受けられます。また個人が寄付する場合は，所得税等の寄付金控除が受けられます。

CPD 通信教育の参加者募集!! 問題と解答はホームページに掲載

農業農村工学会では，学会員であり，かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として，平成 17 年 10 号から農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり，かつ CPD 個人登録者は，どなたでも無料で参加することができ，通信教育分【ac】として年間最大 24 cpd を取得する大きなチャンスとなっています。この機会に，是非 CPD 通信教育へご参加ください。

技術者継続教育機構のホームページにおいて，その時点で解答可能な「通信教育問題」と解答期限を過ぎた「解答」を掲載しています。学会誌がお手元に届くまでの間はホームページ上で通信教育問題をご確認いただけます。

なお，解答内容については技術者倫理に則り，自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり，かつ技術者継続教育機構

の CPD 個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

3. 解答方法

Web画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前にWeb利用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌6号掲載の問題は7月末日が解答期限）

5. 取得できる CPD 単位

10問正解で2cpdを、7～9問正解で1.5cpdを自動登録（正解数6問以下の場合はCPD単位の付与はされません）

6. 自動登録の時期

取得したCPD単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

1. 学会誌小特集の要旨の募集とその報文原稿の執筆

学会誌は毎号テーマを設定した報文小特集を基本に、企画・編集を行っています。本小特集に投稿を希望される会員の皆様には、先に、下記に示す各号の趣旨に沿った報文要旨（A4判、1,500字程度、様式自由）を要旨締切り日までに提出していただきます。

その後、企画・編集委員会において提出された要旨の内容を

検討し、小特集報文を提出していただく連絡を要旨提出された方に行います。その報文原稿の締切り期日は、おおむね本文原稿提出連絡日の約1カ月後です。本文原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守をお願いいたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがあります。

学会誌第94巻・第95巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ		要 旨 締 切 (A4判 1,500字程度)
第94巻第7号	近畿の農業農村整備の現在と未来に向けた取組み	公募なし
	8号 農業高校を取巻く多様な人材育成の取組み	終了
	9号 工事・調査・実験・管理等の現場における基本作業の工夫と技術	終了
	10号 農業農村整備における生態系配慮技術の最前線	終了
	11号 農地整備を契機とした新たな農業経営	終了
	12号 土地改良長期計画に基づく農業水利施設の戦略的保全管理とデジタル活用（仮）	6月10日
第95巻第1号	農業農村工学研究のフロンティア（仮）	7月10日
	2号 渇水リスクの高まりに立ち向かう農業用水の管理技術（仮）	8月10日
	3号 集落の将来を考える（仮）	9月10日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。

送付先（要旨および本文原稿など）

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL：03-3436-3418

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

※提出は、E-mailの添付ファイルにてお願い申し上げます。

学会誌第94巻第12号

テーマ「土地改良長期計画に基づく農業水利施設の戦略的保全管理とデジタル活用」(仮)

令和7年9月に閣議決定された土地改良長期計画では、「農業水利施設の戦略的な保全管理による持続的な機能確保」が重要な政策目標として位置づけられました。ダム、水路、頭首工、ため池などの基幹施設の老朽化が全国的に進行する一方、管理を担う人材の減少や維持管理費の制約が深刻化しており、限られた資源のもとで施設機能を将来にわたり確保するためには、従来の事後保全型から、計画的かつ予防的なストックマネジメントへの転換が不可欠です。

近年、調査・測量・設計・施工・維持管理の各段階において3次元データの活用（BIM/CIM）やICT施工が普及し、施設

情報のデジタル化とプロセス全体の効率化が進展しています。さらに、AIを活用した劣化予測や機能診断、ロボットによる管路点検、ため池の遠隔監視や操作の自動化など、デジタル技術の導入は着実に広がっています。これらの取組みは、現実空間の施設をデジタル空間上で再現・解析するデジタルツインの概念にも通じ、データに基づく合理的な意思決定と省力化を同時に実現する基盤技術として期待されています。

本小特集では、こうした技術の導入事例や効果検証、実装上の課題、データ活用の方法論、人材育成や運用体制の工夫などを広く共有し、農業水利施設の持続的保全に向けた新たな方

向性を議論する報文を募集いたします。デジタル技術を核とした次世代のストックマネジメントの姿を展望する場となることを期待いたします。

学会誌第95巻第1号テーマ「農業農村工学研究のフロンティア」(仮)

農業農村工学の端緒である「耕地整理講義」では、水路、道路、区画、貯水池などの施設設計が体系化されています。併せて「農法の変遷」という時代の変化に柔軟に対応する必要性が述べられています。これにならい、施設設計のみに囚われることなく、エネルギー循環、生態系の保全、農村社会の維持など、本学会は時代に合わせて研究対象を拡大してきました。

2025年9月に閣議決定された土地改良長期計画では、スマート農業による生産性向上、流域治水等の強靱化、農村の魅力創出などが重点課題とされています。また、2026年度から始まる第7期科学技術・イノベーション基本計画では、研究の進め方の刷新、科学研究のAI活用、地域イノベーションの推進などが検討されています。

本小特集では、本学会の特徴である融通無碍な研究姿勢を再認識し、他分野との境界領域や、対象外と捉えられうる研究を

広く募集します。例として、以下のような課題を想定しています。

- ・栽培学や営農技術との境界：気候変動や農村社会の変化に対応した生産体系の最適化やスマート農業による農作物の品質・機能性の向上
- ・食品産業や食品流通との境界：6次産業化を支える加工・流通インフラの整備や地域資源の循環利用モデル
- ・社会科学や地域マネジメントとの融合：農村の地域運営組織や、地域の社会課題の解決につながる取組み

上記は、あくまでも例に過ぎません。当分野との接点を明確に意識しつつも、固定観念を打破する自由な発想による投稿を歓迎します。次世代を担う学生や若手研究者にとって、本学会が総合知の最前線であることを示すことのできる小特集となることを期待します。

学会誌第95巻第2号テーマ「渇水リスクの高まりに立ち向かう農業用水の管理技術」(仮)

近年、冬季の積雪不足や空梅雨の頻発など、従来の水資源管理の前提が覆される事態が常態化しつつあります。令和7年の夏は日本各地で記録的な暑さに見舞われ、河川水位の低下やダム貯水量の極端な減少が生じ、農業用水の確保や適正な配水が困難となりました。その結果、多くの地域で番水などの対応を余儀なくされました。「必要な時に必要な量の水を確保できない」渇水リスクの増加が顕在化しており、このような状況が続けば、不作に伴う農家の収入減、ひいては食料安全保障を脅かす事態に発展しかねません。こうした中、用水施設管理者や農家は農作物被害を最小限に抑えるため懸命な努力を続けています。

この課題に対し、用水再編や渇水対応を図る事業の実施が求められますが、その実現には長い時間を要するため、即効性の

ある対策も並行して進める必要があります。現在、限られた水資源を最大限に活用するための創意工夫と技術革新が各地で始まっています。たとえば、ICTやIoTを活用した細やかな水管理や水需要予測の高度化、ドローン・衛星を活用した作物生育状況や土壌水分のモニタリング等に関する技術開発・研究が進んでいます。また、作付け時期の調整や水利組合、関係機関、地域住民との連携・協力体制の構築、地域全体での水資源の効率的な配分に関する合意形成の取組みも重要性を増しています。

本小特集では、渇水リスクの高まりに立ち向かうため、全国の用水施設の管理者・営農者の皆さんの参考となることを目的に、水管理技術の開発、水需要予測の高度化、関係者間の合意形成の工夫など、現場で実践されている技術や研究に関する報文を募集します。

学会誌第95巻第3号テーマ「集落の将来を考える」(仮)

農村地域では、人口の減少・高齢化とそれに起因する地域資源管理機能の低下、地域活動の担い手確保の困難化など、多くの課題を抱えています。このような状況に対して、集落単位の将来の農業のあり方を描いてきた「人・農地プラン」に代わり、法定計画である「地域計画」が令和7年3月を期限として市町村を主体に策定されることになりました。また、類似の取組みとして、国土交通省では令和3年6月にとりまとめられた「国土の管理構想」に基づき、市町村・地域管理構想が進められています。いずれも、近い将来の集落について住民自らが維持すべき農地の明確化など土地利用の将来像を策定し、それを支える主体を考えるものです。これらは、集落の将来を考える上で有益な取組みですが、その策定には多くの課題もあります。特

に「地域計画」については、策定して終わりではなく、継続的なブラッシュアップが必要とされています。

このような取組みに関して、その策定状況を概観するとともに、策定された将来像のあり方、計画策定で生じた課題、計画の実質化方策等に関する議論を深めることは大変重要なことです。本小特集では、「地域計画」や「国土の管理構想」などの法定計画や政策的な取組みはもちろん、市町村や地域における自主的な取組み、計画策定(技術)に関する検討も含め、土地利用や地域資源管理のあり方を中心とした集落の将来を計画することに関する議論を広く展開できればと考えています。計画の策定状況や策定された計画の特徴に関する報告、計画策定過程の課題と適用できる技術、計画の実質化やブラッシュアップ

に関する知見等、多くの応募を期待しています。

2. 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿原稿およびその他の投稿区分の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ (<https://www.jsidre.or.jp/journal/>) に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」, 「『農業農村工学会誌』原稿執筆の手引き」

を熟読の上、小特集と同じく農業農村工学会誌企画・編集委員会あてに、ご投稿ください。

ご投稿に当たっては、投稿票・内容紹介・本文(テンプレート)の各ファイル(Word)を上記の学会ホームページからダウンロードし、原稿の作成にご使用ください。

改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版およびWeb版の閲覧申込み案内

改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版およびWeb版の閲覧希望の皆様へ

改訂6版 農業農村工学標準用語事典は、2019年8月27日に発行し好評を得ていますが、下記に該当する冊子購入者の中で希望される方には、学会ホームページ上で閲覧サービスを行っています。該当する閲覧希望の方は、下記にしたがい閲覧の手続きをお願い申し上げます。

- (1) 本用語事典の学会 Web 上での開示については、①正会員でかつ個人で購入した方、および②学生会員での購入者(大学等での先生の紹介によるグループ購入者も含む)の中で希望される方へサービスを提供します。
- (2) 上記の条件を満たす方で閲覧を希望される方は、「改訂6版用語事典 Web 上閲覧希望」とメール件名に明記の上、

氏名、会員番号および購入年月を付記して(学生会員でグループ購入された方は、紹介の先生の氏名も含む)、下記 E-mail 宛にお申し込みください。

suido@jsidre.or.jp

- (3) 上記メールを受信および確認後、閲覧の手順およびパスワードを返信メールにてご連絡申し上げます。
- (4) 学会ホームページ上で閲覧が可能なものは、改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版が付記されたコンテンツになります。なお、Web 版とは、改訂5版から改訂6版の編集において、時代や科学技術の変化にともない改訂6版から削除した用語の中から現在においても参考になる用語を収録したものです。

2027年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、2027年発行の学会誌も引き続き学会員の皆さまからの写真などを基本に表紙を飾ることとします。以下の趣旨を参考に魅力ある写真などをふるってご応募ください。

趣 旨

現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業(水利)施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の様態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物、特に新たに完成した施設や施工中の現場事例および国外においては日本の関連技術が適用された事例などの匠(造形美、用の美、融合の美)とそれを含む景観を広く学会員にご紹介ください。また、学生の方が実習やインターンシップなどで訪れた現場の写真も歓迎します。

記

1. テーマ

「農業(水利)施設・構造物とそれらに支えられた農地・地

域の景観など:現代の最新技術と苦勞が垣間見える造形美・用の美など」

2. 対象巻号 学会誌第95巻(2027年第1~12号)

3. 写真などの種類

応募写真はA4以上B4以下のサイズにプリントしたものとします。プリントは「写真用紙—光沢紙」を使用してください。四つ切りワイドも含まれます。なお、四つ切りは254×305mm、同ワイドは254×356mm、A4は210×297mm、B4は257×364mmです。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。データを送信する場合は一点につき20MB以下とし、これを超えるものはCDまたはDVDにて送ってください。形式はJPEGのみに限定します。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 2026年9月30日

※応募時、過去1年以内に撮影したものに限りません。

6. 審査 審査委員会(編集委員と写真家)で選考します。

7. 結果発表

学会誌第95巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は2027年度大会講演会会場内でパネル展示します。

8. 被写体の説明文または「Cover History (表紙写真由来)」の執筆および賞金について

採用作品の応募者は、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History (表紙写真由来)」にご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の賞金(1点につき1万円)をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 著作権・出版権

採用作品の著作権および出版権は(公社)農業農村工学会に属します。

10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること(花などの情緒物に埋没しないこと)が採用の条

件となります。

また、被写体の学会誌への掲載、肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

11. 応募方法および応募先

学会ホームページ(<https://www.jsidre.or.jp/format/>)より、投稿票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mailアドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名詞(固有名詞)、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(公社)農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL: 03-3436-3418

E-mail: henshu@jsidre.or.jp

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2024年7月から2026年6月までの編集体制と編集事務局

国際水田・水環境工学会(International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES)では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」(略称: PAWE)を発行しています。なお、Paddy and Water Environment誌の略称は、これまでPWEとしておりましたが、2022年11月の国際集会以降はPAWEに統一されることとなりました。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2024年のインパクトファクター(IF)は2.1であり、国際ジャーナル誌としての位置づけが確立しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑(水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水(排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全(土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全(水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全(水生, 陸生動物植物の生態系)
- ⑦ 水利施設と減災・防災(施設管理, 地すべり, 気候変動, 災害防止など)
- ⑧ 地域計画(農村計画, 土地利用計画など)
- ⑨ バイオ環境システム(水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑩ 水田の多目的利用(田畑輪換, 田畑転換, 施設園芸)
- ⑪ 農業政策(農村振興, 条件不利地の支援策など)

また、世界12カ国からEditor(22名)を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

2024年7月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

・Editor-in-Chief

Dr. Toshiaki IIDA

Faculty of Geo-Environmental Science, Risssho University, Japan

・Associate Editors-in-Chief

Dr. Seong-Joon KIM

Konkuk University, Korea

Dr. Yu-Pin LIN

National Taiwan University, Taiwan

・Editors 12カ国から22名

・Editorial Advisors 27名

・Chief Managing Editor

Dr. Tasuku KATO

Institute of Agriculture, Tokyo University of Agriculture and Technology, Japan

・Managing Editors

Dr. Eunmi HONG

School of Natural Resources and Environmental Science, Kangwon National University, Korea

Dr. Taeil JANG

Department of Rural Construction Engineering, Chonbuk National University, Korea

Dr. Kuo-Wei LIAO

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Taiwan

Dr. Katsuyuki SHIMIZU

Faculty of Agriculture, Tottori University, Japan

Dr. Shutaro SHIRAKI

Rural Development Division, Japan International Research Center for Agricultural Sciences (JIRCAS), Japan

編集事務局 (2026年6月まで日本担当)

Dr. Tasuku KATO

Institute of Agriculture, Tokyo University of Agriculture and Technology, Japan

TEL : +81-42-367-5757

E-mail : taskkato@go.tuat.ac.jp

投稿先 : オンライン投稿 (<https://link.springer.com/journal/10333>) になります。

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員でPAWE誌の購読者であること。

投稿要領等 : <https://link.springer.com/journal/10333/submission-guidelines> に詳細を記載しています。

発行スケジュール : 年4回 (オンラインジャーナル)

購読料 : 正会員・名誉会員 9,900円 (税込)

学生会員 (院生含む) 4,950円 (税込)

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016年度からの購読はパスワードによるWeb上での閲覧になっています。冊子体の配布はありません。

申込先 : 農業農村工学会事務局 (suido@jsidre.or.jp) まで会員番号を明記の上、お申し込みください。

第77回関東支部大会の開催 (第1報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 支部大会 (講演会・講習会等)

(1) 日時 令和8年11月10日 (火) 10:30~17:00

会場 ベルクラシック甲府

(〒400-0031 山梨県甲府市丸の内1-1-17)

(2) プログラム (予定)

- ① 10:00~ 受付 (1階受付)
- ② 10:30~10:45 開会式 (3階エリザベート)
- ③ 10:50~11:20 支部賞授賞式 (3階エリザベート)
- ④ 11:30~12:30 講習会 (3階エリザベート)
議題および講師 調整中
- ⑤ 13:30~16:30 講演会
第1会場 (3階エリザベート)
第2会場 (3階ユージュニー)
第3会場 (2階ヴィクトリア)
第4会場 (2階コンチェルト)

⑥ 16:45~17:00 閉会式

(3) 会場への案内

JR中央線「甲府駅」から徒歩約3分

2. 情報交換会

(1) 日時 令和8年11月10日 (火) 18:00~20:00

(2) 会場 未定

3. 参加申込み

(1) 講演会, 情報交換会

参加申込締切日: 令和8年10月9日 (金)

(2) 講演申込み

申込締切日: 令和8年10月9日 (金)

原稿締切日: 令和8年10月9日 (金)

(3) 参加費

・講習会・講演会 3,000円 (学生, 講演者は無料)

・情報交換会 金額未定

(4) 昼食

昼食は用意しませんので、各自でお願いします。

4. 問合せ先

山梨県農政部耕地課技術管理担当 村松, 高橋(克)

〒400-8501 山梨県甲府市丸の内1-6-1

TEL: 055-223-1626 FAX: 055-223-1624

E-mail: kouchi@pref.yamanashi.lg.jp

5. その他

詳細は本誌第8号, 山梨県ホームページに掲載予定です。

宿泊の斡旋・手配は行いませんので、各自でお願いします。

第83回京都支部研究発表会の開催 (第2報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 研究発表会

(1) 日時 2026年11月19日 (木) 10:00~17:45

(受付開始9:00~)

(2) 会場 京都府民総合交流プラザ 京都テルサ

〒601-8047 京都府京都市南区東九条下殿田町70

TEL: 075-692-3400

(3) 会場までのアクセス

JR京都駅 (八条口西口) より南へ徒歩約15分

近鉄東寺駅より東へ徒歩約5分
地下鉄九条駅4番出口より西へ徒歩約5分
市バス九条車庫南へすぐ

2. 情報交換会

- (1) 日時 2026年11月19日(木) 18:00~20:00
- (2) 会場 京都府民総合交流プラザ 京都テルサ
- (3) 会場までのアクセス 同上

3. 現地研修会

- (1) 日時 2026年11月20日(金) 9:00~16:00
- (2) 内容
京都府内の農業水利施設や土地改良事業施工現場の視察等を予定しています。コース等、詳細が決まり次第、学会ホームページにてお知らせいたします。

4. 研究発表申込み

発表希望者は、講演要旨原稿の提出に先立ち、以下の情報を簡条書きにした電子メールを「発表申込み」という件名で岐阜大学・小島まで送信してください。申込期限は2026年7月末日です。

- ①表題(仮題でも可)
- ②発表者名, 所属
- ③連名者名, 所属
- ④発表者の連絡先電話番号
- ⑤発表者のメールアドレス

発表者は学会員に限りませんが、連名者に少なくとも1名は学会員が含まれることが要件となっております。

5. 講演要旨原稿および投稿票の提出

- (1) 提出先および期限
研究発表の申込みをされた方は、投稿要領に基づき作成した講演要旨原稿(MS WordとPDFの両方)と投稿票(MS Excel)のファイルを、電子メールで岐阜大学・小島まで送付してください。提出期限は2026年8月末日です。
- (2) 投稿要領
 - ・講演要旨原稿および投稿票は学会ホームページ内の「第83回京都支部研究発表会の開催について」より様式をダウンロードして作成してください。
 - ・原稿の枚数は図面を含めて2枚とします。
 - ・その他、投稿要領の詳細は学会ホームページをご確認ください。発表時間は12分の予定です(質疑応答の時間は今後決定)。
 - ・発表の補助道具として、パソコン(OSはWindows11, ソフトはPowerPoint)を準備しますので、発表用のデータをUSBメモリーでご持参の上、会場にてコピーをお

願います。

・発表者は、研究発表会への参加申込みが別途必要です
のでご留意ください。

6. 発表申込先

岐阜大学工学部 小島悠揮
E-mail: kojima.yuki.c8@f.gifu-u.ac.jp

7. 参加申込み

- (1) 参加申込み
参加申込みは、旅行代理店を通じて行う予定です。学会ホームページ内の「第83回京都支部研究発表会の開催について」にアクセスし、「参加申込み」のリンク先からお申込みください。
- (2) 申込期限 2026年9月30日(水)
- (3) 参加費等 研究発表会(会 員) 3,500円
 (非会員) 5,000円
 情報交換会 未定
 現地研修会 未定

(ア) 昼食

- ・研究発表会当日のお弁当を事前予約にて受け付けます。ご希望の方は参加申込み時に併せてお申込みください。
- ・現地研修会では、昼食をご用意しますので、参加費と合わせて昼食代もお支払いいただきます。

(イ) 参加費等の納入

- ・参加申込み後、旅行代理店の案内に従ってお振り込みください。振込手数料はご自身でご負担願います。なお、納入された参加費につきましては、参加の有無にかかわらず返金いたしませんのでご了承ください。

(4) 宿泊について

当日は行楽シーズンにつき、宿泊施設が混み合うことが予想されます。事務局では、宿泊の斡旋は行いませんので、早めのご予約をお勧めいたします。

(5) 問合せ先

「参加申込み」に関する問合せにつきましては、学会ホームページ内の「第83回京都支部研究発表会の開催について」をご覧ください。

8. 開催地事務局

京都府農林水産部農村振興課
久保田, 高見澤
TEL: 075-414-4900
E-mail: noson@pref.kyoto.lg.jp

2026年度農村生態工学研究部会現地研修会の開催

1. 趣 旨

本研修では、排水路の暗渠化や圃場の大区画化が、農村の生

物多様性に及ぼす影響とその対策について議論を深めるため、これらを施工した現場や環境配慮工法を導入している現場の踏査、ならびに関係者に対するヒアリング等を実施します。

2. 現地研修場所

楡俣地区（岐阜県安八郡輪之内町）、福東新田地区（岐阜県安八郡輪之内町）、志津地区（岐阜県海津市南濃町志津地区）

3. 日 程

2026年7月3日（金）

4. 参加者

- ・大学・研究機関の研究者、学生、民間企業（建設コンサルタント）・行政・土地改良区等の技術者など。
- ・農業農村工学会非会員の方も参加いただけます。
- ・20名程度（申込先着順）

5. 行 程

- 13：00 JR 岐阜羽島駅南口集合
マイクロバスにて移動（20分）
- 13：20 暗渠排水路施工圃場見学（30分）
マイクロバスにて移動（10分）
- 14：00 湛水灌漑地区見学（30分）
マイクロバスにて移動（20分）
- 14：50 水田魚道・江設置水田、大区画水田見学+営農組

合開取り（60分） マイクロバスにて移動（40分）
16：30 JR 岐阜羽島駅南口着

6. 参加費

無料（JR 岐阜羽島駅集合から現地への移動にかかる交通費は当部会が負担します）。集合場所までの移動にかかる費用は各自でご負担ください。

7. 申込み方法

- ・参加申込は、下記 URL もしくは二次元コードからお願いします。



URL：https://forms.gle/xpD7zcdum7QJ6RkK9

フォーム以外（メールや電話など）での参加申込みは取り扱っていません。

- ・事業用車・自家用車による現地での移動も可能です。
- ・申込み期限は6月22日（月）です。希望者多数の場合、期限前に受付を締め切らせていただくことがありますのでご了承ください。

8. その他

暑さ対策は各自でお願いいたします。

9. 問合せ先

岩手県立大学総合政策学部 鈴木正貴
E-mail：s_masaki@iwate-pu.ac.jp

日本学術会議公開シンポジウム「健康な土壌から健康な社会を！—SDGs への貢献」の開催

- 1. 主 催 日本学術会議農学委員会土壌科学分科会, Soil Health 小委員会, 農学委員会・食料科学委員会 合同 IUSS 分科会, 農学委員会植物保護科学分科会
- 2. 日 時 2026年7月25日（土）13：00～17：00
- 3. 場 所 日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）
- 4. その他 詳しくは、日本学術会議公開シンポジウムのホームページ（https://www.scj.go.jp/ja/event/index.html）をご覧ください。
- 後 援 農業農村工学会ほか

混相流シンポジウム 2026 の開催

- 1. 主 催 日本混相流学会
- 2. 開催日 2026年8月31日（月）～9月2日（水）
- 3. 会 場 筑波大学つくばキャンパス第3エリア A 棟・B 棟
- 4. その他 詳しくは、混相流シンポジウム 2026 のホームページ（http://www.jsmf.gr.jp/mfsymp2026/）をご覧ください。
- 協 賛 農業農村工学会ほか

第 42 回ファジィ システム シンポジウム／FSS2026 の開催

- 1. 主 催 日本知能情報ファジィ学会（SOFT）
- 2. 開催日 2026年9月2日（水）～4日（金）
- 3. 会 場 関西大学（千里山キャンパス）
- 4. その他 詳しくは、第 42 回ファジィ システム シンポジウム／FSS2026 のホームページ（https://soft-cr.org/fss/2026/）をご覧ください。
- 共 催 国際ファジィシステム学会（IFSA）
- 協 賛 農業農村工学会ほか